

が、新型コロナウイルスの影響などもあり、「心の復興」はまだ十分と感じています。心を癒やすためには、スポーツや文化活動、そして旅行など非日常のワクワク感が必要と思っています。

赤坂社長 ソフト面でもさまざまな取り組みを進められていると伺いました。震災当時の集会所を活用し、新たなコミュニティの場を作っていらつしやるそうですね。

町長 仮設団地の集会所として活用されていた「みんなの家」は、公民館、消防詰所、潮井公園内の教育スペース、そして、誰もが利用できるコワーキングスペース、また、新たに起業したい方のシェアオフィスやチャレンジショップとして整備し活用されています。
赤坂社長 町のにぎわいづくりにとつても、そうした施設の整備は重要ですね。

共に取り組んだ特産品開発

赤坂社長 今年6月には当社を含め産学協働で、益城町の農産物を使用した特産品開発を行い、全国のカルデイコーヒーファームで販売しました。私もいただきましたが、どの商品もおいしく仕上がっていました。

町長 予想以上の反響にびっくりしました。アイデアを頂いた、東海大学の学生の柔軟な発想に感

銘するとともに、あらためてにぎわいのあるまちづくりには、若い世代の力が必要と感じたところです。また、担当の川合さんの熱い思いや社員として培ってきた経験が、カルデイ、大学、JAなどをつなぎ、実現したと考えています。

赤坂社長 今回はスイカとミニトマトを使った商品でしたが、益城町は農業が盛んで、他の農産物も豊富と聞いています。

町長 太秋柿、ブドウ、サツマイモなど町では多くの野菜や果物を生産しています。若手の農業従事者も多く、新しい生産手法の取り組みや商品の開発などにも積極的に取り組んでいます。



マイナスの経験をプラスに

赤坂社長 熊本地震では震度7が2回起こるなど、未曾有の被害があったと聞いていましたが、ここまで復興が進んでいるのですね。

町長 私たちは震災により、多くの尊い命や大切な財産を一瞬にして失いましたが、一方で、支え合うことの大切さを学び、赤坂社長をはじめ全国の多くの方との出会いもありました。感謝の気持ちとご縁をずっと大切にして行きたいと思っています。

赤坂社長 この対談をしている場所「復興まちづくりセンター」では、そうした震災の記録も見ることでできますね。

町長 今年3月にオープンした施設で、当時の映像や記録などを



ご覧いただくことができます。また、熊本地震で表出し、国天然記念物に指定された町内3カ所の断層は、震災遺構としての整備を進めています。多くの方にご覧いただき、今後の自然災害に対する意識の向上や、防災の心構えに生かしていただきたいです。

赤坂社長 震災というマイナスの経験をプラスに変えるという発想はなかなかできないことで、経営者として学ぶべき点が多くあります。今後もJALグループとして、益城町、そして熊本県の発展のために、微力ながらお手伝いできればと考えております。

町長 今後それぞれの発展のため、力を合わせ取り組みましょう。

これからもつなぎ続ける――